



志賀小学校道徳便り

# はーとふる志賀



令和6年6月14日

吹く風もはや夏めいてまいりましたが、健やかに過ごしてはいかがでしょうか。本校では、運動会も終わり勉強モードに切り替えて、友達と学びに向かう児童の姿が見られます。

さて、今月号では、道徳の授業実践と児童の運動会の感想をお伝えします。

## 【道徳研究授業】



5月22日に6年2組で道徳の研究授業を行いました。「タマゾン川」という教材で、内容項目は自然愛護です。先月の道徳日よりでもお伝えしましたが、『家庭・地域と連携した道徳授業』というテーマで、今回の研究授業に臨みました。自然環境により関心をもってほしいという思いから、トミヨの里株式会社の河野さんをゲストティーチャーとして呼びして、志賀町の自然環境についてお話していただきました。



志賀町の鷺池というところにも、アメリカザリガニ・フナがいる。これらは全て外来種！固有種の「トミヨ」が危ない！！



鷺池にゴミが捨てられたりもするんだよ。



子どもたちからは「えー！」「そうなん！？」「知らなかった」などと驚きの声がたくさんあがりました。「じゃあ何かできることがあるのか」と子どもたちと考え、「まずは外来種とか在来種について知る」や「外来種だけ集めた水族館を作る」、「外来種を殺す…？」など、まだまだたくさんの意見が出ました。

意外にも自分たちが住んでいる町が今どうなっているのかわからないものです。ゲストティーチャーのお話を通して、「志賀町の今」を知り、どうすることができるのかと考える良い機会となりました。

## 【児童の振り返り】



僕は、外来種であるグッピーを飼っています。自分が幼い時は、放そうと思っていたけど今回の授業でそれは絶対してはいけないことだと分かりました。

勉強する前は、自分たちの身近なところに外来種がいることは知らなかった。だけど、勉強してみて、自分たちの近くに外来種がいると知って自分たちが地域のためにできることをしたい。

私は、外来種・在来種への意識が変わりました。最初に、別に「関係ない」・「どうでもいい」と思っていました。しかし、タマゾン川や身近にある鷺池の話聞いて、在来種の大切さ、私たちのくらしにどのような影響があるかを知り、まずは興味を持ってみようと思いました。

身近でもこんなことが起きていると分かったので、「興味ない」や「関係ない」ではなく、もしそのままにしたらどうなるのかを考えていきたい。



【運動会感想】



5月18日(土)に運動会が行われました。がむしゃらに走り、声を出し、熱い思いで取り組む子どもたちの姿にとっても感動しました。保護者の皆様、たくさんのご声援ありがとうございました。

校舎2階にある、道徳コーナー『志賀っ子こころの広場』で運動会の感想を募集しました。今回は、団長を務めた3人と6年担任の感想を紹介します。



運動会で成長したと思うことは、  
自信がついたことです。

赤団団長 山下 しりゅう



団長になって、みんなをまとめる  
リーダーシップの力がつきました。

青団団長 今村 たつなり

団長として1~5年生に、振り付けが変わったところを教える  
ことを通して、リーダーシップの力を少しだけ上げることが  
できたとおもった。

黄団団長 山本 こうせい



一人ひとり信じ、  
一人ひとりの“良さ”  
を引き出せたこと。

畑中先生



「失敗してもいい！  
それでもまずはやっ  
てみる」と伝えら  
れたこと。

6-2担任 細口先生



黄団のみんなが団結  
していく姿を見て、  
「子どもを信じて任  
せよう」という思いが  
強くなったこと。

6-3担任 伊藤先生

